

保健所における相談支援の実態調査

～愛知県3保健所の取組から～

中部大学 現代教育学部
塩之谷 真弓

① 名古屋市保健所

- 管轄1市
政令指定都市 16区 保健センター
- 人口約230万
- 高齢化率 24%
- 出生数 約19,000/年

H29年度時点



小慢申請数

新規 344人 継続 1,367人/年
人口呼吸器使用児数 19人

アンケート調査
でニーズに基づ
いた交流会・講
演会

H27年度に小慢受給者アンケートを実施



講演会・交流会を、**本庁にて全市対象**に実施
H28年度 年3回、H29年度以 **年4回開催**

令和元年

ご参加お待ちしております♪

小児慢性特定疾病児童等自立支援事業 **参加費無料** 交流会のお知らせ

第1回

子どもの自立のために育てたい力

保護者向け

～疾病を抱えながら成長していく子どもへのかかわり方について～

自立、自律した大人になるため、子どもは疾病とどう向き合うのか。また成長段階における支援者(保護者)のかかわり方を知ろう。

講師 上村 治 先生(一宮医療療育センター センター長 小児科医)

保護者の交流会中に実施します

ワークイベント

子ども向け

～おいしい飲み物とスイーツのカフェ体験～

子どもどうして協力して楽しみながらおやつを作って、カフェの店員さんになってみよう。働くためのイメージを作ろう。

講師 管理栄養士

日時 令和元年8月9日(金)
14時00分～16時00分

対象 全小慢疾患、
年中以上向け

場所 西保健センター

第2回

がん哲学外来 メディカルカフェ

～どあらかって病気のことを話してみない?何だかほっとするよ～

お茶を飲みながら、疾患を持っていてもがんばっている人の話を聞いたり、自分の話をしてみよう。

講師 がん哲学外来メディカルカフェどあらかって
オブザーバー:堀田 知光 先生(国立病院機構名古屋医療センター 名誉院長)
ピアサポーター

日時 令和元年8月25日(日)
14時00分～16時00分

対象 悪性新生物、
小学生以上向け

場所 名古屋市高齢者就業支援センター

ばくも小慢
受診者です。

メディカルカフェ
どあらかって代表
中村 航大

名古屋市
保健所

第3回

がんばっている、 自分のからだ

～ショーマンクリニックで、
病気やからだの仕組みを楽しみながら学ぼう!
医師看護師の体験やクイズラリーもあるよ!～

①子どもどうしの交流
お医者さんや看護師さんになりきって診察体験。聴診器で心臓の音を
聴いてみよう!
血圧測定や赤ちゃんのお世話体験

②保護者どうしの交流(終了後①に合流して親子で体験を予定)
講師を交えての座談会

名古屋国立大学看護学部教授 門間 晶子 さん

日時 令和元年12月1日(日)
14時00分～16時00分

場所 名古屋市立大学看護学部

対象 全小慢疾患、小学生



第4回

ジョブワーク セミナー in ハローワーク

～病気とつきあいながら仕事をするには?
自分に合った仕事探しをしてみよう!～

- ①ハローワーク職員の話(病気とつきあいながら仕事をするには?
こんな仕事もあります(在宅でできる仕事など))
- ②ハローワーク見学
- ③子どもどうし、保護者どうしの交流

日時 令和元年12月27日(金)
14時00分～16時00分

場所 ハローワーク名古屋中

対象 全小慢疾患、
中学生以上



② 豊橋市保健所

■ 管 轄 1市
中核市

■ 人 口 約37万

■ 高齡化率 24.9%

■ 出生数 約3,000/年

H29年度時点



小慢申請数

新規 56人 継続 256人/年

人口呼吸器使用児数 10人

H27～小慢児童
等支援協議会
での課題共有
から支援を展開

小児在宅医療推進多職種連携研修会 H30年度～

【内 容】事例検討、講演、グループワーク、交流会・情報交換会

【参加職種】医師、歯科医師、訪問看護師、保健師、薬剤師、理学療法士、ヘルパー、歯科衛生士、医療ソーシャルワーカー、相談支援員、患者会、行政等

⇒役割の明確化、顔の見える連携、SNSネットワーク等連携方法の確認

小児慢性特定疾病児や家族への支援

講演会・家族のつどい H28年度～

平成29年度 小児慢性特定疾病
講演会・家族のつどいのお知らせ

先輩ママの子育て体験談
～気になること、聞いてみませんか？～

テーマ	みんなの思い みんなの工夫
日時	平成30年1月26日(金) 午後1時30分～午後3時30分
会場	豊橋市保健所 研修室A・B (2階)
講師	小児慢性特定疾病のお子さんを持つ3人のママ ・1型糖尿病：つばみの会愛知岐阜の会員 ・慢性腎臓病検査元のママ ・難病の子ども支援ネットワークの会員
アドバイザー	小山 典久医師 (豊橋市立病院 小児科部長)

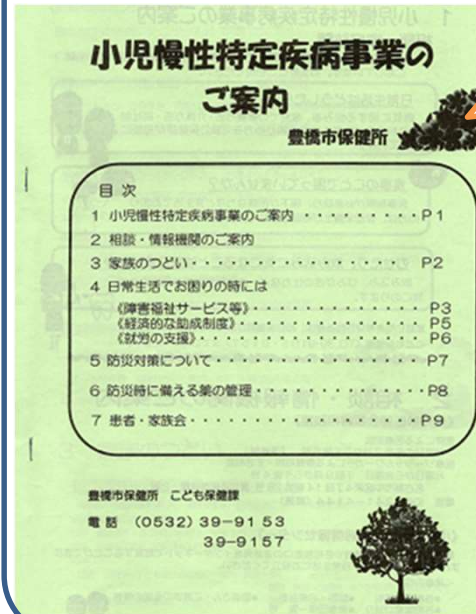
小慢児の6割が通院する市民病院小児科部長を講師やアドバイザーに

テーマ「みんなの思い、みんなの工夫」

内容：家族の心得、母の気持ちと入園入学時の工夫・就職や結婚、災害への備えと薬の管理、ピアとのつどいなど

★2医療圏3保健所と連携：各保健所のつどいに全域から参加可能とし、広域的に交流の機会をつくる

小児慢性特定疾病事業のご案内



新規申請者に配布し不安の軽減

【内容】小慢事業案内、つどい、日常生活で困った時の各種、障害福祉サービス、経済助成、就労支援、防災対策、防災時の薬の管理、患者・家族会など

小慢協議会で課題となった医ケア児の看護体制について障害福祉課に働きかけ

障害児看護支援事業 H30年度～

【実施主体】障害福祉課
【概要】保育園、学校等に通う医療的ケア児に看護師が保育園等を訪問してケアを実施し、保護者等の負担の軽減を図る

③ 愛知県衣浦東部保健所

- 管轄 6市
碧南市、刈谷市、安城市、知立市、
高浜市、みよし市
- 人口 約59万
- 高齢化率 20.1%
- 出生数 約5,500/年 H29年度時点



小慢申請数

新規 93人 継続 374人/年

人口呼吸器使用児数 11人

小慢申請時の
アンケート・面談
によりニーズを
把握し支援へ

- ・アンケートをface to faceで保健師が回収し、困りごとや医療的ケアの有無、児のADL等を確認
- ・状況に応じて相談～家庭訪問等の支援へ
- ・所内事例検討会(1回/月)で保健師の学びや人材育成

愛知県衣浦東部保健所での小慢相談支援フロー

小慢申請

チラシ「病気を抱えるお子さん、ご家族の方へ保健所窓口のご案内」配布

- 新規：**面接**、必要により**家庭訪問**
- 継続：保護者アンケートをもとに必要者に面接
- 申請以外の患者・家族からの相談

所内事例検討会議(1回/月)

災害を含む台帳作成

アセスメント

支援必要度判定

母子リーダーと共に支援の必要性をアセスメント

個別支援

電話、面談、訪問等

集団支援

家族のつどい、患者会紹介等

応援ミーティング

関係機関と連携した地域支援

地域支援者研修会

医療的ケア児等関係機関連絡会議

学校看護師配置と、配置後の医療機関連携

- ・訪問看護を活用した市を紹介し、看護師配置の検討を各市に依頼
- ・配置を決めた事例について、応援ミーティングを開催
- ⇒看護移行期間の設置。医師の指示書の様式を看護師と見直し市に提案

病気を抱えるお子さん、ご家族の方へ 保健所での相談窓口のご案内

保健所では、医療費の助成が受けられる小児慢性特定疾患の申請を受け付けています。また、保健師、歯科衛生士、管理栄養士による面接相談、電話相談、家庭訪問により、病気を抱えるお子さんやそのご家族を支援しています。

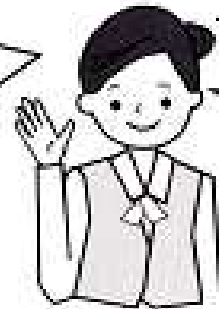
保健師です！

安心して療養生活を送れるよう、申請手続きで来所された際の面談や、**家庭訪問**でご相談をお受けしています。

お子さんの**発育・発達**や**就園・就学**などについてのお悩みをご家族と一緒に考えます。

相談・訪問は**無料**です！

お子さんやそのご家族を対象に**患者・家族教室**を開催し、療養生活に役立つ話や交流の場を提供しています。



歯科衛生士です！

むし歯や歯肉炎の予防の仕方をはじめ、**歯磨き**や**仕上げ磨き**のコツ、**歯医者さん**の**かかり方**などについてアドバイスしています。



管理栄養士です！

おいしい食生活ができるよう**食事**や**栄養**に関わるお困りごとについて、アドバイスします。

お子さんの年齢、ご病気の状況によって、食べやすい**調理方法**や**食材の選び方**等についてのご相談をお受けします。

悩みを抱え込むことのないよう、お気軽にご相談ください。

連絡先：衣浦東部保健所 健康支援課 地域保健グループ Tel.0566-21-9338 【相談時間 9：00～17：00】

保健師への相談、歯科衛生士等との同行訪問 ~ 訪問歯科の導入など

応援ミーティング（本人・保護者参加型ケース会議）の開催

【目的】

- 本人やきょうだい、保護者を中心に支援関係者が集い、安心して学校等で生活できるよう応援する。
- 災害時の備えを含め対策を検討する。

【方法】

- 学校等で開催：主治医始め保健医療福祉教育関係者が集う。本人や家族の想いを学校組織全体で理解できるよう、希望する教職員全員が参加する。
- 医療機器や家庭環境を実際に確認するため、自宅に関係者や防災担当者が集まり、災害対策について検討する。

＜参加者例＞



【成果】

- 関係者の病気の理解、役割と連携の理解、本人や家族と関係者の安心
- 緊急時対応の確認～医療機関連携が取りやすくなる
- 校長先生「待っているね」と前向きな声掛け
本人「皆が病気や学校生活のことを考えてくれて嬉しかった」
- 保健所理解：事例検討会や学校災害マニュアル会議に参加依頼等、連携促進

関係者から大切にされているという安心感